
ねこっ子が恩返し！

零歌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ねこっ子が恩返し！

【Nコード】

N2416E

【作者名】

零歌

【あらすじ】

家の事情でとあるアパートに引越した”かるさわみよ苅澤水夜”。夜中まで続いた部屋の片付けを終え、眠りに就こうとした時、天井に猫？が張り付いてるのに驚いて…。水夜と猫っ子の楽しいギャグ生活の始まり！

第一話 猫の不法侵入（前書き）

内容がごちゃごちゃです。が、それでも構わないと言っ方のみお読み下さい m ((m

第一話 猫の不法侵入

- - -

「……よしっ！こんなもんか！」

私は部屋中に広がっていたダンボールを畳み、台所の隅に置いて、部屋を見渡した。

今日の朝に引越して来て、荷物がかなり積まれてた部屋。今ではかなりすっきりしている。…と思う。

やっぱりアパートとなると部屋は小さいね！

まあ、こんくらいが一人暮らしに調度良いっつーか。

「うん！山積みだった荷物や散らかった部屋が綺麗になつてるとすっきりするわね！」

私は腰のベルトに掛けていた時計（犬のキーホルダーの腹が時計になつてる）を見た。

「あー…もうこんな時間…。もう夜明けだし…。」

どんだけ片付けてたんだ…（汗）

えーっと…片付けは、荷物の運び込みとかが終わって、電話に出て…。

………昼食食べてすぐに始めたんだっけ？

…で、昼食食べ終えたのが…2時半位だったっけ？

……うん、2時過ぎに食べたんだもん。

……私食べるの遅いし、そんな位に食べ終えてもおかしくない。

……で、今はー、…午前4時26分。

……あ、今27分になった。

「……そろそろ4時半じゃーん…。もう寝よつと…。」

私は欠伸を一つ漏らし、顔を洗い、歯を磨き、パジャマに着替えて、布団を敷いて寝転がる。

……うん、明日ベッド見に行こう。

ベッドで寝た方が落ち着く…。

そう思い、寝返りうち、天井を見上げる状態になった。

……。

って、

「ぬわあぁっ！……！……！……？……？」がばっ

な、何っ！！？

ちょ、何っ！！？

今、え、ちょっ！！？？

私が叫び、布団から起き上がった理由。
それは……

「て、天井に何か居た……っ！！」

部屋が暗いからよく見えないケド、なんか黒い物体が天井に……！

「ちょ、で、電気っ！！！」

私は急いで布団から出る。

そして部屋の電気を点けてもう一度天井を見る。

「……………。」

『に、にゃー』

「ああ！なーんだ、ねこさんかー。もう脅かせないでよねえ……」

って、

「いやいやいやっ！……！……！おつかいだろっ！……？？何で天井に猫っ！？つか猫にしちゃデカイって……！絶対猫じゃないって……！」

反応するか分からないケド、なんとなく天井に張り付いてるものに対してツツコんだ。

『いいえ、これでも猫なんです。』

つか反応しちゃったよっ！

「猫が喋るわけないでしょっ！」

『僕は別なんです。』

「別な猫なんてあるかいっ！」

『あります。』

冷静に『あります』とか言われるとなあ…。

『…僕が猫だと言う証拠に、ほら。』

と、自分の頭と腰下を指差す。
そこには、

『尻尾と耳です。』

「……そ、そーですね……。」

確かに、ソイツの頭でぴこぴこ動いている双つのソレは猫耳であり、ソイツの尻の少し上でゆらゆらと揺れている長いのは猫の尻尾。

マジで猫なんだな…。

「えーっと……取り敢えず、降りて来てくんない？それ、まるでホラー……。」

『……。』

天井に張り付いていた猫だと言い張るソイツは一つ溜息を零し、トントンと静かに天井から降りた。
本当に静かに、物音なんて殆ど聞こえなさそうなくらいに。

それedyやくソイツの顔を初めて見た。
ソイツの顔を見て私は驚いた。

「……………お、おんな…の子…？」

『そうですが？』

こゝ声とか一人称とか、なんか男の子っぽいかな、とか思ってたんだケド…違ったみたいだな…。

「あ、はあ……。つて、なーんでアンタみたいな子供が『猫です。子供じゃありません。』……………」

その背丈に顔を見て、アンタを子供と言わずしてなんて呼ぶんだよ。だからと言って猫だなんて呼べるような姿でもないし…。

……いや、人間とも呼べないんだケド。

「えーっと…、なんでアンタ、私の家の天井に居るんだよ？」

『おじゃましました。』

おじゃましました、じゃなくて。

『貴女、名前は？』

「はあ？普通、名前聞く時は自分から名乗らない？」

『僕、主様も居ないんで名前無いんです。』

何、その微妙な設定。

「あつそ。…私は^{カルサワミヨ}苅澤水夜。」

『なら、カルサワミヨ、僕を此処に置いて頂けまs…
「ふざけるな。」』

『なっ！？』

私は言葉を遮り、即答した。

そして私はその無礼な猫の首根っこを掴み、玄関の外に

『うわあっ！！』

放り投げた。

「では、さようなら。」

私はどこか黒い笑顔で、その猫に手を振った。

『な、人間の癖につ！！』

「うるせ、家探してんなら人ん家に居ないで、不動産屋行け。」ばたんっ！

私は勢い良く扉を閉め、鍵をちゃっかり閉めてドアガードを立てた。そして部屋に行き、窓の鍵を閉め、カーテンも閉める。部屋の電気を消し、布団に潜った。

もう、マジふざけんな。

疲れた！何で引越し早々疲れなきゃならないんだ！

……………うん、もう寝よう。

どうせあの子供はもうやっては来ない。

うん。

そう自分に良い聞かせ、眠る。

でも、その考えはかなり甘かった…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2416e/>

ねこっ子が恩返し！

2011年1月26日16時38分発行